

1. 陶芸の森における事業のイメージ

第2回懇話会までの議論を踏まえつつ、それぞれの事業の果たす機能と設置目的との関連を整理

陶器産業の振興

+

(陶芸)文化の向上



	創る・学ぶ機能	遊ぶ・交わる機能	見る・触れる機能	人材育成
展示(陶芸館・屋外)	○	○	◎	○
つちっこプログラム	◎	○	○	◎
アーティスト・イン・レジデンス	◎	○	○	◎
屋外イベント(作家市等)	○	◎	◎	△
産業展示館(市所管施設)	△	○	○	△
公園としての機能	△	◎	○	△

事業間の連携



+

信楽の町全体との相互連携
中核施設・観光施設としての機能、情報発信機能

2. つちっこプログラムについて

つちっこプログラム … やきものに関する鑑賞教育や体験教育の場を提供

- ① 子どもやきもの交流事業 … 学校の授業にあわせた出張型事業(指定管理業務として実施)
- ② 世界にひとつの宝物づくり … 来園による創作体験や展覧会、薪窯見学(実行委員会が実施)

つちっこプログラム

子どもやきもの交流事業
(陶芸の森の指定管理業務)

出張授業 (未就学～大学生)
陶芸体験授業
場所:各学校

※特別な出張講座の場合(休日に実施するイベント等)は実行委員会
が担当する。
・その他 講師育成のための研修会
などを実施

世界にひとつの宝物づくり事業
(世界にひとつの宝物づくり実行委員会)

来園制作(幼稚園～大学、障がい者、団体)
鑑賞、見学、陶芸体験を組み合わせた活動
場所:陶芸の森

来園見学(小学校～高等学校)
展覧会鑑賞、工房や窯見学、信楽焼のお話など
場所:陶芸の森

検討課題(第1回懇話会資料より)

- ・ 講師数や焼成スペースの不足
→ 信楽産地や試験場との連携
- ・ 制作場所等の確保(現在は産業展示館(市施設)を活用)
→ 専用場所の確保
- ・ 産業・文化振興との連携
→ 信楽産地、試験場等との連携方策



来園時の制作場所
(産業展示館内)

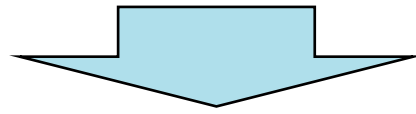


制作風景



試験場との連携講座の様子





① 事業継続の必要性について

- ・ 陶芸・陶器産業の次世代人材の育成だけでなく、ものをつくる喜びや感動を体感することによって、次世代の心豊かで想像力にあふれた人材育成につながる。
- ・ 滋賀県教育振興基本計画においても、「滋賀に学ぶ体験活動」の1つとなっており、「子ども・子ども・子ども」の観点からも重要

② 運営主体のあり方について（現在は、指定管理事業と実行委員会による事業）

- ・ 実行委員会には、県から負担金を拠出しているが、安定的な財源確保が課題となる。
- ・ 指定管理事業として行うことで、財源的には負担金よりも安定するが、指定管理事業として位置付ける以上は、県として実施場所を確保することが必要
- ・ 制作場所の確保を前提に運営主体の統合について、関係者と丁寧に協議しながら進めていく必要がある。

③ 講師候補者の安定的な確保について

まずは産地の次代を担う方々に講師を経験してもらうことが重要

- ・ 信楽高校の生徒のインターンシップによる講師体験
 - ・ 若手作家や試験場研修生の講師への登用
- } 自身の技術向上や創作活動への刺激にもつながる

④ その他

- ・ 滞在作家との交流など、アーティスト・イン・レジデンスとの連携のさらなる可能性
- ・ 制作場所(窯を含む。)についても、空き工場の活用など、産地との連携のさらなる可能性
(陶芸の森の窯も使用しているが、アーティスト・イン・レジデンスの滞在作家や地元の作家等との調整が必要)

【つちっこプログラムの利用者の声】(アンケートより抜粋)

参加児童の声

- この作品は千年後も残るなど、陶芸についてたくさん教えてもらったので、心に残りました。
- 花のかんむりをつくっているときに、陶芸家さんがアドバイスをくださったので、理想通りのシーサーができました。
- お茶わんの絵がらにいろんな意味がこめられているとは知らなかったです。初めて自分でつくったので、このお茶わんでお茶を飲みたいと思います。
- 私は今まで家のお茶わんとかが割れたらすぐに捨てていましたが、短い時間でしたが貴重な体験をさせていただき考えが変わりました。陶芸家さんが一つひとつ丁寧に作ってくださっているので、大切に使っていこうと思います。
- 動画で見たかまのようすを実際に見ることができてわくわくしました。灰が溶けてかべや天井がつるつるしていました。知らなかったことを教えてもらいました。
- アイデアがふわふわういてきてとても楽しい時間でした。大人になっても忘れられない時間をありがとうございました。

先生の声

- 行く前より信楽や信楽焼に興味を持った子が増えた。
- 信楽の町と陶芸体験を通して、滋賀の産業をととても身近に、また誇りに感じたようだ。
- 土に触れることを思う存分楽しんで満足していました。一人ひとりの思いを尊重していただき、素敵な作品をつくることができました。
- 事前の情報共有で児童一人ひとりに合った声かけや支援をしていただき、全員が満足できる作品ができた。
- ふだんは落ち着きのない子もびっくりするほど説明をよく聞き、集中して制作する姿に感動した。
- 実際に足を運んで自分の目で見ることで、普段より近くでみたり他の作品を探したりと信楽焼への関心も高まった。作品は、修学旅行の記念となった。
- 例年、園外保育を実施していたが、今年度は子どもたちが土に触れ、音や手触り、匂いなど様々な感覚を経験してもらいたいと思い、お願いした。遠出が難しい人もいるので、出張していただけるのはありがたいです。(療育センター)
- 本物の技や伝統ある芸術を職業として活躍されているプロの魂に触れることが、子どもたちにとって魅力ある学習となった。

●制作費を下げしてほしい。 ●県の補助金が使えなかったのが残念だった。

【参加者人数の推移】

(単位:人)

事業	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	累計 (H14~H26含む)
①交流	6,962	9,007	7,722	6,488	6,855	6,695	6,746	114,822
②宝物	4,100	2,949	2,948	2,337	5,174	4,991	5,009	49,968
合計	11,062	11,956	10,670	8,825	12,029	11,686	11,755	164,790

【講師数の推移】

(単位:人)

H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
20	18	18	16	16	16	19

【窯利用場所の状況】

(単位:個)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
陶芸の森	3,100	2,387	2,436	2,081	1,327	1,924	1,605
試験場	-	-	-	-	-	-	14
その他	7,332	8,052	7,195	6,142	7,816	6,057	6,410
合計	10,432	10,439	9,631	8,223	9,143	7,982	8,029

※ 試験場での実績は、試験場連携講座(R5から実施)のみ

3. アーティスト・イン・レジデンス事業について

- ・ 国の内外から陶芸家等のアーティストを受け入れ、創作にふさわしい場所や設備、作陶機会などの提供を行い、次代を担う陶芸家を育む一助とすることを目的としている。
- ・ 陶芸家とのつながりを通じた世界との交流、また、滞在アーティストによるアーティストトークの実施、専用のインスタアカウントの開設等により、作家のつながりを中心とした陶芸の森のより広い広報や交流活動に繋がっている。

検討課題(第1回懇話会資料等より)

- ・ 信楽産地との連携(産業振興・人材育成等)
- ・ 事業成果の県民への還元(見える化)
- ・ アーティストと地元との関わりがあまり知られていないのではないか(第1回懇話会での意見)

【参加アーティストからの評価等】

- スタジオの制作環境、必要な機材等、スタッフの指導等についてはおおむね高い満足度で、応募時に計画していた「制作内容」の達成度も高い状況
- 住環境については、共用部分の清掃やルールについて厳しい声もあり(一部抜粋)
 - ・ 居住部の風呂やトイレをはじめとした施設全体の老朽化している(修理では追いつかないことが多々ある)。Wi-Fiが途切れることがある。
- そのほか、滞在中の他のアーティスト等との交流について、肯定的な意見が多いが、あまり交流できなかったという声もあり。
 - ・ 滞在作家との交流やスタッフの指導等で新たな知識や経験を得ることができた。
 - ・ 一緒に料理をしたり、バーベキューパーティーをするなど、陶芸以外の面で国際交流をもつことができた。
 - ・ 町内の作家との交流の場や展示・販売できる場があるとよい。



居室



居室



食堂



サロン



洗濯室

① 事業継続の必要性について

- ・ 信楽を世界に発信する上で重要な役割を担っており、滞在アーティストからも高い評価を得ている。
(県内外から日本人だけでなく、見学に来る外国人も多い。→ 関心のある方々からのレジデンスとしての評価は高い)
- ・ 作家は外部からの風を吹き込み、信楽の活性化のキーになる存在であり、広報や交流の場としての価値もある。
- ・ 滞在作家がのちに信楽に移住するなど、地域の活性化に貢献している事例あり(約20名)

② 事業(成果を含む)の周知について

- ・ これまで築いてきたアーティストとのネットワークを情報発信ツールとして生かす(陶芸家に向けた発信)
 - ・ アーティストの作品展示、制作風景の見学、アーティストと地元の交流等の周知
 - ・ レジデンスをきっかけにした定住者の地域活動等の紹介
- 一般の方向けにどのような形での発信が有効か

③ 施設面について

- ・ 住環境については、比較的厳しい評価であるため、長期滞在であることを念頭に、老朽化への対応としての計画的な修繕だけでなく、居住部、共用部分も含め、快適な空間の確保が必須
- ・ 窯はレジデンスだけでなく、地元作家にとっての貸窯としての利用もあり、重要。

④ その他

- ・ 信楽高校・試験場研修生、産地事業者、子どもたちとの交流など、産業振興・人材育成等への連携についてのさらなる可能性

【これまでの実績(のべ参加者人数)】

(単位:人)

	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5	累計
ゲスト	17	20	13	6	6	9	10	89
スタジオ	40	49	60	22	52	41	40	361
合計	57	69	73	28	58	50	50	450

【現在の広報方法】

- ・各種広報媒体(陶芸の森公式HP、Instagram, Facebook, X(旧Twitter))を活用した広報
- ・信楽駅・信楽高校・中学校へのAIR関連イベントのチラシ配布

4. 信楽窯業技術試験場・地域との連携(産業振興、人材育成等)

① 信楽窯業技術試験場と連携した取組(R6計画)

- ・ 試験場のロビー展示監修
- ・ リデザイン事業への企画協力
- ・ 産地向けコトづくり勉強会や試験場研修生に対する滞在アーティスト等による講座の開催
- ・ 試験場の技術協力によるデジタルコンテンツ制作(陶芸館所蔵品のアーカイブサイトの充実)

② 地域と連携した取組(R6計画)

- ・ 信楽高等学校の各学年に対して陶芸の森での体験実習や授業を行うなど、地域団体と連携した人材育成の支援
- ・ 陶器産業後継者の育成支援の一環として「カプセルトイ」で販売するモデル作品を公募し、デザインの優れたモデルについては、陶芸館ミュージアムショップの「カプセルトイ」で販売
- ・ やきものグルメ展で、地元のレストラン等で使用されている信楽作家の器や盛付写真等を展示し、地域への人の流れを促す。



滞在アーティストによる講座



アニマルトイ展示



金賞作品



高校への支援

検討課題(第1回懇話会資料より)

- ・ 隣接地にある試験場との新たな取組
- ・ 地域(組合、商工会、信楽高校等)との新たな取組



新たにどのようなことが考えられるか

5. 公園機能の魅力化について

検討課題(第1回懇話会資料より)

- ・ THEシガパークの取組による魅力向上とあわせ、陶芸の森としての公園機能の魅力化
- ・ 必要となる財源の確保等 (駐車場の有料化 など)

(1) 陶芸の森としての公園機能の魅力化

- ・ イベント(セラミックアートマーケット、しがらき学ノススメ!)などのさらなる充実
- ・ 野外展示等の充実 (展示テーマの明確化・QRコードによる作品紹介 など)
- ・ 散策路なども含めたオープンミュージアムとしての整備
- ・ 信楽焼に触れる機会の提供

など どのような方法が考えられるか

(2) 必要となる財源の確保等

- ・ 駐車場有料化の検討
 - 渋滞緩和につながるか、甲賀市・周辺駐車場との連携、徴収時期(通年、イベント開催時のみ等)・方法等
- ・ ネーミングライツの導入の検討
 - 募集条件等の課題

など どのような方法が考えられるか

(3) THEシガパークとしての今後の取組

3つの視点(「美しい公園」、「優しい公園」、「楽しい公園」)と3つの取組

- ・ 「Team Up!」 … 県内他公園(シガパーク同士)との共同した魅力発信や他の県施策との連携
- ・ 「Level Up!」 … どの公園にも共通する施設の魅力向上(トイレ、園路、駐車場等の整備)、各施設の特徴に応じた施設整備
- ・ 「Tie Up!」 … 民間事業者とのタイアップ(ネーミングライツ、民間イベント等の公園での実施)、市町の公園との連携
 - 陶芸の森としての公園機能の魅力化とあわせて、県全体の動きと合わせて取り組む必要

6. 人材育成について

検討課題(第1回懇話会委員意見より)

- ・ SNSによる発信等、インターネットを活用した交流の場をつくるのが可能になっているが、対応できる人材が必要
- ・ 産業、芸術、地元事業者とアーティストとの交流など、様々な人々をつないでコーディネートできる人材が必要

- ・ 各種事業の実践の中での人材育成
- ・ ワークショップ等を通じたキーマンの育成 など どのような方法が考えられるか

7. 他府県の類似施設の取組等について 【兵庫陶芸美術館】(展覧会入館者数 年間約30,000人)

(1) 総論・運営形態

- ・ 直営で運営しているところであり、指定管理者制度への見直し等の動きは現時点ではない。
- ・ 設立20年近くたっており、老朽化への計画的な対応が課題となっている。

(2) 展示機能・収蔵品等の状況について

- ・ 5室ある展示室の1つを常設展として丹波焼の展示を行っている。
- ・ 特別展を3フロアに分かれている4つの展示室を用いているため、順路など、展示の配置に苦慮しており、巡回展などでは4室では手狭なこともある。
- ・ 収蔵庫が手狭となっており、収納棚の棚板の増設など、空間を有効活用できるよう見直しを行っている。



美術館入り口



ウッドデッキ



展示棟内部



常設展



特別展

(3) 作家招聘事業について

- ・ レジデンスのように滞在し、作品を制作ということではなく、アーティスト・トーク、ワークショップといった形で地元窯元等との交流を実施
- ・ 招聘した作家には、作品の展示を行ってもらっており、公的美術館で個展を開くような形となっていることから、一定のニーズがある。
- ・ 招聘作家の展示を行うことで、リアルタイムな現代陶芸を紹介することができ、先鋭的な現代陶芸を発信できる美術館としての評価に一役買っており、幅広い来館者層を引き寄せ、地域を知っていただく契機になっている。

(4) その他

- ・ レストランについては、目的外使用許可により民間事業者が運営。
- ・ 隣接する市の施設とは、逐次情報交換や共同イベントを開催するなど、連携して取り組んでいる。
- ・ 会議室等の貸し出しも行っている。
- ・ 駐車場の有料化は現時点で予定はない。(最寄駅からのバスが少なく、車での来館が中心のため)
- ・ 地元事業者の組合とも連携しており、各種講座の講師等をお願いしている。



貸しホール



貸し会議室



茶室



景観



市施設のショップ

今後の予定について

これまでの状況 令和5年11月21日(火) 第1回懇話会 …… 滋賀県立陶芸の森の現状等について、現地視察
 令和6年3月27日(水) 第2回懇話会 …… 陶芸の森の事業等のあり方について
 令和6年5月28日(火) 第3回懇話会 …… 陶芸の森の事業等のあり方について(第2回からの続き)

今後の予定

7月中・下旬 ～8月上旬	第4回目 ・ 第3回までの議論・意見交換の整理
12月下旬 ～1月上旬	第5回目 ・ まとめの意見交換